



令和5年8月7日
 福島県会津農林事務所 農業振興普及部
 (TEL 0242-29-5307)
 JA会津よつば あいづ西部営農経済センター

1 気象概況及び予報

会津若松市の令和5年7月の平均気温は26.4℃（平年比+3.2℃）で、降水量は133.5mm（平年比-58.2mm）と、**高温・乾燥傾向**で推移しました。

東北地方の1か月予報（7/29～8/28）によると、暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。降水量と日照時間は平年並みの見込みです。

2 生育概況（8/1現在、会津若松市）

表1 各樹種の果実肥大状況（8月1日調査、暦日比較、平年は1986～2022年の平均）

樹種 品種	りんご		かき	
	ふじ		会津身不知	
調査地点	会津若松市北会津町		会津若松市門田町	
分類	縦径	横径	縦径	横径
果実径(mm)	56	65	38	51
平年比(%)	100	106	124	114

(1) りんご

ア 果実品質

果実肥大は、暦日比では平年並み、生育日数比だと平年より小さく推移しています(表1)。なお、凍霜害の影響により、中心果の結実率が低く(中心果結実率:10%)、変形形やサビ果が多く見られています。

イ リンゴハダニ

北会津町のほ場において、雌成虫が1葉あたり3頭程度発生しており、要防除水準に達しています。8月に入り、ハダニの頭数は増加傾向にあります。

ウ 褐斑病

7/20頃の調査時では、普及部管内の6ほ場のうち2ほ場で少～中程度発生しており、発生ほ場割合は、平年よりやや高い状況です。特に、昨年多発した園地で発生が多くみられます。

(2) かき

ア 果実品質

果実肥大は、暦日比では平年より大きく、生育日数比だと平年並みで推移しています(表1)。

イ 生理落果

6～7月上旬の降水量が平年より多かったことから、樹勢が極端に強い園地では生理落果が多発しました。

(3) もも

ア 果実品質

6月以降（硬核期～果実肥大期）の降水量が平年と比べて多かったため、平年と比べて裂果（図1）が多く、糖度はやや低いです。



図1 裂果
(R5. 7/31 撮影
あかつき)

イ せん孔細菌病

3年前にせん孔細菌病が多発した園地において、発生は少ない状況です（夏型枝病斑は1樹あたり2本程度）。

ウ 灰星病

収穫期の降雨により、早生品種において平年と比べて灰星病による被害果（図2）が多く見られました。



図2 灰星病
(R5. 7/18 撮影、あかつき)

エ クワオオハダニ

梅雨明け後の高温・乾燥により、増殖しています。

(4) ぶどう

ア 高温障害

7月中旬以降の高温・強日射によりハウス・露地において、果実の高温障害が発生しました。

イ 黒とう病

生育初期（5月）の発生を抑えられなかった園地では、果実感染も見られます。

3 今後の栽培管理

(1) 樹種共通

ア かん水

通常は5～7日間隔で10aあたり20～30tかん水を実施しますが、乾燥が続く場合は、1回あたりのかん水量を調整し、かん水間隔を短くしましょう。

※収穫前の果実では収穫5～7日前のかん水は控えてください（糖度が低下するため）。

イ 草刈り・マルチ

草生園においては樹と草との水分競合を防ぐため、草刈りを行いましょう。

また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましよう。

※地表面からの蒸発散量は、刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分となります。

ウ 病害虫防除

収穫前日数には特に注意し、使用濃度や使用回数等の農薬使用基準を十分に確認し、間隔が空きすぎないように注意して使用ましよう。

(2) リンゴ

ア 晩生品種の仕上げ摘果

リンゴ（ふじ）では花芽分化期にあります。仕上げ摘果が遅れると養分の競合から

翌年に充実した花芽を確保できない恐れがありますので、仕上げ摘果が終わっていない園地では迅速に実施してください。

イ 早生品種の収穫前管理

平年よりも気温の高い日が続いているため、日焼け果の発生が確認されています。葉摘みは、日焼け果の発生状態を確認しながら数回に分けて行いましょう。

ウ ハダニ類

梅雨明け後、高温乾燥が続く場合は多発する恐れがあります。なお、ダニ剤の散布は、効果を高めるために草刈り後に実施しましょう。

エ 褐斑病

本病の発生が多い場合は梅雨期以降も防除間隔が空かないよう降雨前の防除を徹底し、感染拡大を防止しましょう。

(3) カキ

ア 新梢管理

凍霜害により着果不足の園地では、新梢の発生が多くなります。7～9月にかけて3回程度に分けて新梢管理を実施してください(一度にせん除すると枝の二次伸長を招く恐れがあるので注意してください)。

イ 着果管理

小果、傷果、奇形果等を中心に摘果を実施しましょう。

(4) モモ

ア 収穫前管理(晩生種)

今年のこれまでの品種の収穫期は、平年よりやや早くなっており、晩生種の収穫期も平年より早まることが予想されます。

修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置などを計画的に実施しましょう。


イ せん孔細菌病

降雨により感染が拡大しやすくなります。被害枝・葉・果実は見つけ次第速やかに除去して適切に処分しましょう。

越冬伝染源の密度を低くするため、**秋期防除(銅剤)は3回**、確実に実施しましょう。

(5) ブドウ

ア カサ掛け

高温障害(図3)が発生する場合は、**カサ掛け**を実施しましょう。  **図3 高温障害**

イ ベと病

昨年、発生が多い園地では、今年も多発が予想されます。袋掛け後は速やかに銅剤を散布してください。 **(R5. 7/25 撮影)**

○近年、農業災害が多発しています。農業保険(農業共済・収入保険)に加入しましょう!

○会津若松市でクマの目撃が相次いでいます。朝夕、1人で園地に行かないようにしましょう!

○収穫残渣は、クマが電気柵内に入ろうとするきっかけになります!

園地に放置せず、適正に処理(一か所に集めて埋める、柵で囲う等)しましょう!

